

歴史に対する深い理解を通じて 人生の選択・判断に生きる思考力を育みたい



日本史

前川修一 先生

明光学園高校（福岡・私立）

大学院修士課程を修了後、教員となって23年目。2003年度から明光学園中学・高校教員。進路指導部長。社会科のほか、体験型学習で将来を考える学校設定科目「キャンパスデザイン講座」の授業も担当。15年度、MOOCでの東京大学インタラクティブ・ティーチング受講を機に、自身の授業スタイルを大きく変革。

見方・考え方 時間軸をもって 物事を俯瞰する

歴史を学ぶとは、教科書の流れをひことおろし追うことや、重要語句を憶えることだろうか。それも確かに大切だが、明光学園高校で日本史を教える前川修一先生が、より強く意識しているのは「歴史教育の目的である歴史的思考力を育むこと」だ。

歴史的思考力育成の重要性はこれまでも学習指導要領で謳われてきたが、前川先生は教育課程の国際比較資料を見た時、その方向性が海外ではより強調されていると感じたという（図1）。資料では、歴史教育によって育む力について、イギリスであれば「継続と変化」「原因と結果」といった観点を示し、ドイツであれば獲得すべき「コンピテンシー」を明確にあげるなど、各国のより具体的な状況から、グローバル社会に求められる資質・能力に着目した歴

史的思考力の育成重視の傾向が分析されている。

では、歴史的思考力とは何か。「時間軸上にある因果関係をふまえて物事を俯瞰する力」と前川先生は捉える。「もし、そうした力をもって俯瞰できないと、人間は物事の一面だけにとらわれ、単純で短絡的な判断・行動になりがちです。歴史は繰り返すといわれますが、まったく同じ道をたどるループではなく、わずかに上昇しながら繰り返されるスパイラル状の動きです。そこにある差異を見て考えていくことに、私たちの判断・行動のヒントがあるように思います」

授業デザイン

歴史の知識を基に 現代的な問いに取り組む

歴史的思考力を身に付けるには、単に歴史的現象の因果関係を学ぶだけではなく、そこに「現在の自分との接点」を見出すことが大切だという。

「日本史を学ぶことは、太古の昔から受け継がれた自分のなかにあるDNAとの対話ともいえます。まったく自分と関係のない遠い昔の話ではなく、自分分事として捉えて考えられると、歴史の流れに対する理解がより深まるのではないのでしょうか」

具体的な授業実践はこうだ。前川先生の授業では、ジグソー法やグループワークなどの手法を活用して、生徒自

実際の授業の流れ

■テーマ…鎌倉幕府の成立と 統治機構

1 導入

本日の授業の目的「鎌倉幕府の成立と統治機構を理解する」「目標」「①源頼朝の政権掌握の課程を説明できる」「②朝廷とは別に守護・地頭を設置した理由を説明できる」を提示。肖像画を使ってウォーミングアップ。



2

本日の問いの提示

MQ「武家政権はどのように誕生し、成長したのか?」、FQ「主従関係はどのようなときに生じるのか?」を提示。



3 解説

鎌倉幕府の機構についてKP法による解説を行う。

4 個人・グループワーク

研究者が執筆した一般の歴史概説書から抜粋した文章を読み、「將軍と御家人はどのような関係を結んだのか?」など4つの問いについて考える。グループで話し合っ、各問いの答えとなるキーワードを書き出す。



図1 歴史教育に関わる教育課程の国際比較

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
教育課程企画特別部会(第8回)配布資料より作成

| 国 ～参考資料 | アメリカ ～1996年ニューヨーク州 (New York Learning ST) | イギリス ～2003年ナショナル・カリキュラム (K3) | ドイツ ～2004年バーデン＝ ヴュルテンベルク州 |
|-----------------|---|---|--|
| 動向 | ○全米教育組織による全米規準を参考し各州が策定 | ○歴史学習の成果を、実社会で役立つ学びへと転移させるために歴史学の手法を導入、時系列をおさえた学習を重視 | ○2015新レアプラン発表予定：コンピテンシーの獲得重視、共通コンピテンシーと校種毎の段階的評価規準の明確化 |
| 取り扱う主要な概念、キーワード | ○6つの概念で構成(文化の伝播・移動・移住、多地域帝国、宗教システム、交易・貿易、衝突)、諸地域世界の相互作用を取り扱う | ○歴史学の概念(継続と変化、原因と結果、類似、差異と重要性)の理解 ○概念の活用 ○探究方法の理解 ○見方の獲得 | ○疑問のコンピテンシー ○判断のコンピテンシー ○方法のコンピテンシー |
| 学習活動等の特徴 | ○多様な時間・空間から、自他の地域を相対化 ○政治経済学習と連携 ○将来に向けた実社会に役立つ資質の育成 ○過去の事象の歴史的评价を問う | ○地域・国家・ヨーロッパ・世界レベルでの歴史を扱い、多様性を強調 ○主題設定し、概観学習・テーマ学習・深化学習を組み合わせる | ○教師が問いを発し、諸資料を活用して、探究的に授業を構成 ○日常的にICTを歴史の授業で活用 |

日本の2009年高等学校学習指導要領と諸外国を比較、諸外国の状況について、「①グローバル社会に求められる資質・能力について着目し、②主要な概念を中心にカリキュラムを構成し、③歴史的手法を習得させ、歴史的思考力を培うことを重視する傾向がある」と分析されている。

身が文献や史料から歴史の流れやそこにある因果関係をつかみとる活動が中心となる。そこで生徒が主体的に取り組みやすいよう、冒頭で授業の目的・目標とともに、この単元で考えてほしい2つの問いを提示する。

その1つは、教科書の内容に沿ったメインクエスト(MQ)。もう1つは、教科書の内容を少しずらして普遍化したファンダメンタルクエスト(FQ)で、これが歴史と自分とをつなぐカギとなる。

例えば、鎌倉仏教に関する単元のFQは「なぜ人間は宗教を必要とするのか」、執権政治の確立に関する単元のFQは「ルールや決まりごとが必要になるのはどんな時か」といった具合に、単元で学んだ歴史的現象をふまえた現代にも通じるテーマを設定している。

FQの普遍的な問いへといざなう仕掛けとして、授業には現代の話題や史料を積極的に取り入れる。例えば、鎌倉仏教が流行した背景に相次ぐ戦乱や天変地異による飢饉があったことを学ぶ際、当時の状況が描かれた餓鬼草紙の史料とともに、現代のアフリカにおいて飢饉に苦しむ子どもたちの写真も用い、「今も同じことが起こっていますね」と関連づける。生徒は、宗教に救いを求める当時の人々の苦しい状況に対する理解を深めたうえで、FQ「なぜ人間は宗教を必要とするか」に取り組み。

単元のリフレクションの一部として生

徒が記入したMQ・FQの解答は、回収して前川先生がすべて目を通す。FQへの解答は簡単ではなく、当初は二行も書けなかった生徒もいるが、多くは数カ月でだいぶ書けるようになるという。

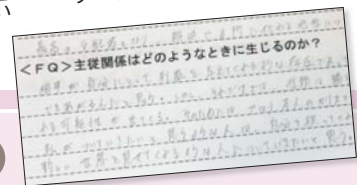
「自分の言葉で文章表現できるといふことは、知識を頭のなかで統合できるといふこと。プリントに垣間見える成長に涙が出る思いです。こうしてトレーニングを積むことで、時間軸をもった思考が日常的な習慣となるのではないかと期待しています」

FQに「正解」はないため、意見が正反対に割れたり、ユニークな捉え方がみられたりする。それは次の時間の冒頭にクラス全体で共有し、さらに学びを深めている。

教科ならではの「見方・考え方」が社会でどう生きる？

時間軸をもって物事を見る力は、生徒がこの先の人生を歩むうえできつと役に立つ、と前川先生は考えている。

「先人の知恵や歩みがあって今の自分があるということをしっかり振り返ることによって、自分の未来が見えてくるものです。困難にぶつかった時や岐路に立った時、過去もふまえて考えられるかどうかで、判断や行動はだいぶ変わってくるでしょう。自分の人生を俯瞰しながら豊かなものにしてほしいですね」



5 グループワーク 結果の確認
各グループがあげたキーワードをもとに、前川先生が解説。

6 本日の問いへの解答
各自、MQ・FQの解答に取り組み。

7 解説
プリントを使いながら知識を整理。頼朝を中心とした系図を用い権力抗争について解説。

8 リフレクション
授業のまとめとして、後鳥羽上皇と北条政子はどのような人で、承久の乱はどうなったのかをイラストで表現させる。



※2時間連続授業

生徒の声

史跡めぐりの楽しみ方が変化
2学年・幸田 華さん
これまで「なぜこうなったの?」「なぜこうしたの?」と疑問に思っていた歴史の背景や流れが、前川先生の授業ではよく理解できます。たまに母に付き合っただけで史跡めぐりをする時、以前はその良さがわからなかったのですが、今は、授業で学んだ歴史の知識が結びついて面白く感じるようになりました。

歴史があるから今があると実感
2学年・坂西 恵さん
聞いているだけの授業ではないので最初は難しかったですが、今はその時代を深く考えられるようになったかなと感じています。先生が現代と結びつけ授業をしてくださるので、こういう歴史があるからこそ今の時代があるんだと考えさせられます。もしこの人がいなかったら現代は…? などと考えると面白いです。